

指導教授推薦文

論文等テーマ 中国語形容詞の時間表現に関する一試論
—日本語との対照研究から—

著者名 高立偉

従来中国語の形容詞にはテンスは存在しないものとの通説があったが、論者は形容詞の時間性は無視できないとし、研究を進めている。

形容詞は「状態形容詞」と「性質形容詞」に分けられてきた。前者は動詞的特性を持ち、「形容詞+了」の形において時間性を持つ傾向があり、後者は時間性を持ちにくい。ただし、両者は連続性があり、相互に転換する可能性のあるものもある。

論者は特に「状態形容詞」の時間性を、関連する動詞との具体的な一連の出来事の関係においてとらえようとしており、モデル化して考察している。新たな研究方法を模索している段階であるが、この段階で、これまでの研究の一部を試論の形で発表することに意義があるものと認め、ここに推薦する次第である。識者のご指導を得ることができれば幸いである。

2009年10月31日

推薦者（指導教授） 今泉喜一

論文等テーマ 中国語における二重主語 —日本語との対照研究から—
著者名 劉琳

論者は修士論文において、日本語の「象（が）は鼻が長い」「田中さん（が）は長男が結婚した」のタイプの二重主語は実は中国語にも存在するのではないかと考え、研究を行い、「我腰疼（私は腰が痛い）」「小王死了父亲（王さんは父親が死んだ）」等の12の例文を取り上げ、構造図示して二重主語であることを示した。また日本語のこのタイプの二重主語文にある8つの特徴のうち、主題化に関わる2つを除く、6つの特徴が共通していることも明らかにした。中国語の先行研究では、二重主語についてはいまだ明確な言及がないようであり、新たな知見をもたらす結果となったものと考えられる。

論者は本稿において、論旨を保ちつつ、例文をいくつかにしぼるなどして修士論文を適切にまとめている。本論文集に掲載することにより、識者のご指導を仰ぐことが

できれば幸いである。

2009年10月31日

推薦者（指導教授） 今 泉 喜 一

論文等テーマ 社説におけるハズダ文の研究

— 前後の文脈と機能の論理関係、同質化効果に関する一考察 —

著 者 名 大 水 利 之

論者は本論文において、社説に用いられるハズダ文がどのような意味機能を持つかについて、論旨全体に視点を据えつつ、ハズダが使用される局面の前後文脈との論理関係に注目し、分析と考察を試みている。

その結果、ハズダの機能として ①問題提起〈トピックセンテンス化〉と提言への接続の機能、②提言帰結の機能、③批判の機能、の3種類の機能を抽出した。また、ハズダの各機能から「同質化効果」を導き出し、ハズダが、相手を同質化する意図のもと、相手に論理的に訴え、理想の具現化に向けて行動を促すために用いられるという結論に達している。

論者はこのように独自に、社説におけるハズダを「同質化をめざす表現」としてとらえ、この同質化のメカニズムをモデル化し、図により表現している。ここに本論文の特徴があるといえる。

本論文を大学院論文集に掲載することにより、識者のご指導を得ることができれば、論者の研究の今後の展開に大いに資することになると思われる。ここに推薦する次第である。

2009年10月31日

推薦者（指導教授） 今 泉 喜 一